

「国立公園の魅力とそれを支える地域活動」

担当教員名 高田 雅之

コース概要

日程	2018年9月6日～10日
場所	北海道：利尻礼文サロベツ国立公園
参加人数	29名

コースのねらい

国立公園の優れた自然にふれるとともに、NPO 活動などによる保全や、産業振興との共生に取り組む人々の活動現場を訪ね、自然の魅力を支える地域社会の在り方について学びます。また稚内市の自然エネルギーの現場を訪ねて自然との関わりを考えます。

内容

サロベツ湿原地域

初日はまず、日本最北の国立公園「利尻礼文サロベツ国立公園」の中のサロベツ湿原を訪ねました。活動の中核施設であるサロベツ湿原センターで NPO サロベツ・エコ・ネットワークの方や、長くサロベツを見守り、また関わってきた地域の方のお話を聞いて、サロベツの自然や NPO 活動、地域の人々との関わりについて学びました。またサロベツ湿原の木道を散策しながら、かつての泥炭の採掘跡地や、地平線が見える日本最大の高層湿原の雄大さを体感しました。夜は豊富温泉で星空観察を行い、今朝発生した胆振東部地震による停電の中で一夜を過ごしました。

2 日目は、豊富町大規模草地牧場の雄大な景観を眺め、牛を間近に見た後、海岸に沿って連なる長大な海岸砂丘林内を散策しました。そして失われた海岸林を再生する植林用のミズナラ（ドングリ）を育てる苗畑で草むしり活動に汗を流し、実際の植林再生地の見学をしました。午後は山本牧場に酪農の現場を訪ね、子牛にミルクをあげる体験とともに、湿原と農地との共存の取り組みについて学びました。次いで環境省の自然保護官から国立公園の管理や課題についての講話を聞き、牧草地を歩いて湿原の自然再生の現場を案内していただきました。

利尻島地域

3 日目はノシャップ岬をまわって稚内から船で利尻島を訪ねました。神居海岸パークで観光体験プログラムのひとつであるウニ採り体験をし、自分でさばいたウニを軍艦巻きにして舌鼓を打ちました。そして地域おこし協力隊の方に島の自然資源を観光や地域づくりに生かす取り組みについてお話いただき、有意義な意見交換を行いました。続いて街中に残された古い建物と倉を生かした「島の駅」を訪ね、アートや文化の視点から地域づくりに取り組む活動について学びました。夕方は溶岩が所々むき出しになった杓形の岬公園を散策し、海に沈む夕日を見ることができました。夜はホテルで利尻島自然情報センターの方



大規模草地牧場で牛と触れ合う（サロベツ）



環境省自然保護官より自然再生について説明（サロベツ）

に利尻島における外来種問題についてお話いただき意見交換を行いました。

4日目は種富湿原で外来種オオハンゴンソウの駆除体験を行い、道具を使って根から掘り取ることの難しさを実感しました。次に島の経済を支えるウニ種苗センターを見学し、北麓野営場から利尻山の登山道を甘露泉水まで歩き、自然観察をしながら登山道の浸食問題やトイレ問題、外来種持ち込み防止などを現場で学びました。続いて利尻を代表する景勝地である姫沼、オタドリ沼、南浜湿原を訪ね、美しい景観とそれを構成する植物や水辺に触れました。仙法志御崎公園でアザラシを見たのち、利尻町立博物館を訪ねて施設を見学し学芸員の方から地域の自然を知り資料を保存することの大切さについて学びました。夜の「利尻塾」では風車と景観、そして野鳥への影響を題材に利尻島自然情報センターの方と実り多い意見交換を行いました。

稚内地域

最終日の5日目は、自然エネルギーをテーマに稚内のメガソーラーと宗谷岬ウインドファーム（風車）を見学し、サロベツや利尻で説明のあった風車と景観や野鳥との関係について現場で考えました。日本最北の地、宗谷岬からサハリンを遠望し、自然資源豊かな道北のしめくくりとして、宗谷丘陵フットパスコースのひとつ「白い道」を散策し北海道を後にしました。

このコースの目指すところは、国立公園の最前線で活動する様々な方のお話を聞き、自然と人との「軋轢の姿」と「共生の姿」を自分の目で見出し、自然の保護と恵みの享受について考えることです。豊かな自然の地域にも多くの人が暮らしていて、地域との関わりなしに自然は守れないことを実感し、新しい発見と忘れ難い経験が得られたのではないのでしょうか。

【学習を終えて】1年 植村 美沙

今回、はじめてFSに参加しました。講義では自然保護についてなんとなく守らなければならないものだと思っていましたが、実際に現地に赴いて今まで目にしたことのないような広大な自然、星空、またそこに生存する動物を見て、圧倒されました。それと同時にそこで活動する人々や地域住民自身がその地域を誇りに思い、また魅力を丁寧に私達に話してくださる姿を見て、人間の利益の点を考えるだけでなく、人間が自然と共存できる環境こそ理想の地域であり、今回行ったサロベツ、利尻、稚内のように、その地域住民が魅力と考えれば自然保護にも通じると感じました。

【受入先からのメッセージ】NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワーク 嶋崎 暁啓さん

広い広い空と地平線まで続く大湿原をフィールドに、酪農業と保全活動の最前線をご案内させていただきました。人間活動と原生自然が隣接するサロベツで、地元の人々や行政担当者がどのように自然を見つめ、課題と向き合い、行動しているのか…。それぞれの想いに触れ、現場を知ること、学生皆さんが、今後の保全と利用の在り方について考えるきっかけにいただければと思います。また美しい夕陽、満天の星空、新鮮な牛乳や美味しい魚介など、地域の魅力も満載でした。ぜひサロベツの自然にも興味を持ち、好きになってもらえたら嬉しいです。



採れたてのウニをさばいて軍艦巻に（利尻）



外来種オオハンゴンソウの引き抜き作業（利尻）